

薬の伝言板



慢性閉塞性肺疾患(COPD)

No341 2026年4月

丸子中央病院 薬局

皆さんはCOPDという病気をご存知ですか？COPDは長期間の喫煙などが原因で肺が炎症を起こし、呼吸がしにくくなる病気です。日本では40歳以上の約12人に1人、推定で530万人以上がCOPD患者であると考えられていますが、治療に取り組んでいる人は1割にも満たないのが現状です。放置すると肺機能が徐々に低下して重症化すると酸素吸入が必要となるため、早期発見、早期治療が重要になります。

●COPDってどんな病気？

有害な物質が長期にわたって肺を刺激すると、細い気管支に炎症を起こし（細気管支炎）、咳や痰が多くなります。その結果、気管支の内側が狭くなり、空気の流れが悪くなります。

有害物質が肺胞にまで及んで炎症を起こすと、肺胞の壁が破壊され、古くなったゴム風船のように弾力がなくなり（肺気腫）、空気をうまく吐き出せなくなります。

●主な原因は喫煙



最大の原因は喫煙であり、喫煙者のおよそ15~20%が発症するとされています。そのほかにも大気汚染や呼吸器感染症、職業上の曝露などが影響することもあります。

●特徴や症状 →進行がゆっくりでわかりにくいいため、疑うことが大事！

- ① 喫煙歴あり（特に40歳以上）
- ② 咳、痰、喘鳴
- ③ 労作時（階段や坂道の登り）の息切れ
- ④ 風邪症状時の息切れや喘鳴
- ⑤ 風邪を引くと悪化しやすい
- ⑥ 心血管疾患、高血圧、糖尿病、脂質異常症、骨粗鬆症を併発しやすい



●検査

医療機関でスパイロメーターという器具を使って肺がうまく働いているかを調べます。他にも病状の問診や、体の診察、胸のレントゲン撮影、血液検査などをおこない、肺の状態を詳しく調べ、ぜん息などの似た症状を起こす病気を除外したうえで診断します。

- ① 問診
- ② 呼吸機能検査（スパイロメーター）
- ③ 画像検査（胸部CT、X線）



●治療 →症状を改善し病気を進行させない。やりたいことを続けられるように！

① 禁煙 ← 最も重要



すでにタバコで肺が傷ついている方は、禁煙をしないとさらに肺は傷つきます。また、一度傷ついた肺をキレイに戻す治療はないため、**禁煙が最も大事な治療**になります。ニコチン依存症となると、意志だけでは禁煙が難しい場合もあります。担当の医師に相談したり、禁煙外来を受診することも大切です。



② 薬物療法

治療は基本的に飲み薬ではなく**吸入薬**を使います。呼吸困難などの症状がある場合に、気管支を広げて呼吸を楽にしたり（抗コリン薬、 $\beta 2$ 刺激薬）、炎症を抑えたり（ステロイド）する目的で使用されます。また、吸入薬を使用しても十分に効果が得られない場合に自己注射可能な抗体製剤を使用する場合があります。その他、痰を取る喀痰調整薬や、重症化予防でインフルエンザワクチンや肺炎球菌ワクチンの接種が有効な場合があります。

主な吸入薬の種類	成分名
抗コリン薬（※①）	チオトロピウム吸入剤など
$\beta 2$ 刺激薬	インダカテロール吸入剤など
抗コリン薬 + $\beta 2$ 刺激薬	チオトロピウム・オロダテロール吸入剤など
ステロイド（※②） + $\beta 2$ 刺激薬	ブデソニド・ホルモテロール吸入剤など
ステロイド + 抗コリン薬 + $\beta 2$ 刺激薬	フルチカゾン・ウメクリジニウム・ビランテロール吸入剤など

※①抗コリン薬が含まれている吸入薬は前立腺肥大症の方ではまれに症状を悪化させることがあります。

※②ステロイドが含まれている吸入薬の使用後は副作用（口腔や咽頭のカンジダ症）の予防のため、必ずうがいをして口の中や喉に残った薬を洗い流す必要があります。

注射薬（自己注射可能）	効果と特徴
デュピルマブ皮下注 （抗体製剤）	<ul style="list-style-type: none"> ・炎症の原因となる物質をブロックして症状の増悪を減らす。 ・通常は他の吸入薬と併用し、2週間間隔で使用する。

COPD の治療は毎日欠かさずに吸入薬を使用することが大切です。

- ・吸入器によって細かい吸入のポイントは異なります。
- ・吸入手技が難しい場合（上手く吸えない・薬のセットがうまくできないなど）、一部の吸入薬には吸入補助具もあります。

詳しくは薬剤師にお尋ねください。



文責 薬局 吉村